

家畜衛生情報

東部地域畜産経営技術推進指導協議会

西部地域畜産経営技術推進指導協議会

675号

2025.8.10

富山県東部家畜保健衛生所

富山県西部家畜保健衛生所

「富山県産牛乳マーク」ができました 1
 ランピースキン病防疫対応の
 変更について..... 2
 高病原性鳥インフルエンザ・豚熱
 について研修会から情報収集 3
 他県の事例から学ぶ鳥インフルエンザの
 防疫対応..... 3
 第66回東海・北陸ブロック家畜保健
 衛生業績発表会が開催されました 4

「富山県産牛乳マーク」を目印に
 毎日モオ～1杯！ 4
 畜産女性研修会開催される..... 5
 酪農について学ぼう
 くろべ牧場で畜産体験学習会..... 5
 防疫情報..... 6
 家畜衛生ポスターデザインコンテスト
 今年のテーマは豚熱..... 6
 お知らせ..... 6

「富山県産牛乳マーク」ができました



「富山県産牛乳マーク」による消費拡大に向け佐藤副知事を表敬訪問
 (左から富山県乳業協会 長谷寛 会長、富山県乳牛協会 青沼光 会長、佐藤副知事、富山県牛乳普及協会 碓井養一 会長)

7月24日、富山県牛乳普及協会・富山県乳業協会・富山県乳牛協会が、県内乳業メーカー統一の「富山県産牛乳マーク」を新たに作成し、県産牛乳の差別化と更なる消費拡大に取り組むに当たり、佐藤副知事を表敬訪問されました。

表敬訪問では、各協会から作成の趣旨やマークに込めた思い、今後の普及・展開などについて説明がありました。佐藤副知事からは「生産者・乳業メーカー・販売店がタッグを組んで、県産牛乳を盛り上げる取組みは本当に素晴らしい。県民の皆さまには暑い夏を乗り切るため、また毎日に欠かせないものとして県産牛乳を飲んでほしい」と応援のメッセージが送られました。

県では、地産地消や県内の食のブランド推進につながる本取組みを今後も応援していきたいと思っております(関連記事4ページ)。

(農産食品課食品安全係 中村主任)

ランピースキン病防疫対応の変更について

令和6年11月、福岡県で国内初のランピースキン病が確認され、熊本県にも広がり、計22事例・230頭の感染が報告されています。本病は、これまで届出伝染病として行政指導による対応が中心でしたが、防疫が不十分な事例も見られたため、感染拡大防止に向けて制度の見直しが行われました。

本病は令和7年7月28日から1年間、家畜伝染病予防法第62条第1項の疾病として指定され、**殺処分令や移動制限など家畜伝染病と同水準の法的措置**をとることが可能になりました。これにより、より強制力のある対応ができるようになり、感染拡大の防止と畜産業への影響軽減が期待されます。

防疫対応の概要

■殺処分

- 臨床症状を示し、ウイルスが分離された牛（患畜）および遺伝子検査で陽性と判定された牛（疑似患畜）が殺処分の対象になります。

■ワクチン接種

- 予防的なワクチン接種は原則として実施せず、発生農場および半径5km以内の農場（周辺農場）が緊急ワクチン接種の対象となります。複数地域で発生するなど感染拡大の懸念がある場合には、協議のうえ半径20km以内の農場まで接種対象を拡大することが可能です。

■牛の移動制限

- 発生農場と周辺農場では、牛にワクチンを打ってから21日が経過するまでは、他の農場や家畜市場への移動はできません。ただし、と畜場への出荷は制限の対象外であり可能です。

ランピースキン病の概要

ランピースキン病は牛に感染するウイルス性疾病で、皮膚の結節、発熱、流涎、リンパ節の腫れなどが見られます。死亡率は高くありませんが、生産性の低下が懸念されます。感染はサシバエや蚊などの吸血昆虫の媒介に加え、感染牛の移動や汚染物品を介しても拡大します。

農場での予防対応のお願い

1 健康観察と早期発見

- 牛の導入・移動時には健康状態を確認し、異常がないことを確認してから受け入れてください。
- 皮膚の結節（水腫）、発熱、乳量の減少などの症状が見られた場合は、速やかに隔離し、獣医師または家畜保健衛生所へ連絡してください。

2 吸血昆虫対策（特にサシバエ対策）

■卵・幼虫・さなぎ対策

- 堆肥の切り返しを隅々まで行い、発酵熱による殺虫効果を高めましょう。
- 牛舎の隅やカーフペン、バークリナーなど糞が残りやすい場所にはIGR製剤を散布しましょう。

■成虫対策

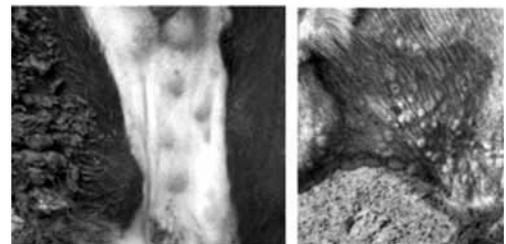
- 一匹のサシバエの成虫は生涯約600個の卵を産む能力があるとされており、成虫の防除は重要です。
- 薬剤抵抗性を防ぐため、作用機序の異なる殺虫剤をローテーションで使用しましょう。
- 防虫ネットは地面から2mの高さまで設置し、穴の有無を定期的に確認しましょう。
- 牛舎周辺の下草刈りや防草シートの活用も効果的です。

3 車両等を介した伝播の防止対策

- 車両がウイルスを運ばないために、出入りする車両は洗浄・消毒を徹底し、また、農場外へサシバエ等を持ち出さないよう車体・車内への殺虫剤散布を行いましょう。
- 人がウイルスを運ばないために、衛生管理区域では専用の衣類・長靴を着用し、器具類は1頭ごとに交換または消毒を徹底してください。エタノール、次亜塩素酸ナトリウム、逆性石鹼等の多くの消毒薬が有効です。

サシバエは8月の高温期に活動が一時的に落ち着きますが、秋口に再び活発になる傾向があります。本病は複数の経路で感染が広がる可能性があり、全国的に発生リスクがあることを踏まえ、日頃からの衛生管理と防疫体制の徹底をお願いいたします。

（東部家保防疫課 槻尾係長）



ランピースキン病の病変（出典：農林水産省）

高病原性鳥インフルエンザ・豚熱について研修会から情報収集

7月31日に三重県で令和7年度高病原性鳥インフルエンザ・豚熱等防疫研修会が開催され、オンラインで参加しました。研修会では北海道大学の迫田教授から、高病原性鳥インフルエンザと豚熱に関する最新の情報についての講演がありましたので、いくつかトピックスを紹介したいと思います。

○高病原性鳥インフルエンザの発生状況と対策について

過去5年にわたり、国内で連続して発生した高病原性鳥インフルエンザは、今年～来年のシーズンも発生する危険性は高いと考えられます。近年流行している高病原性鳥インフルエンザウイルスは、鶏に感染が成立するために、大量のウイルス（20年前に比べて100倍以上のウイルス量）が必要となることがわかっています。環境中のウイルスは見えませんが、鶏舎周辺環境の消毒や、鶏舎入口での消毒、更衣、長靴の履き替えなど多段階に対策を行い、鶏舎内に持ち込む野外環境中のウイルスを段階的に減らしていくことが、鶏への感染を防ぐために非常に重要です。これからのシーズンに備えて、鶏舎周辺の環境整備など、飼養衛生管理基準の確認と遵守をお願いします。

○豚熱ワクチンの接種日齢について

豚熱についても高病原性鳥インフルエンザと同様に、まずは、野外に存在する豚熱ウイルスを豚に感染させないため、豚舎周辺の環境整備、衛生管理や消毒などの対策が非常に重要です。現在、豚熱はワクチン接種により発症を防ぐ対策も取られていますが、母豚からの移行抗体によるワクチンブレイクを懸念し、子豚へのワクチン接種日齢を遅らせる対策をとることもあると思います。しかし、母豚からの移行抗体が多少残っていても、ワクチン接種により子豚は免疫を獲得し、豚熱の発症を防御できるため、過度に接種日齢を遅らせることなく、適切な日齢で接種を行うことが極めて重要です。

○豚熱マーカーワクチンについて

先日、農林水産省が公表した豚熱清浄化ロードマップでも示されていた、野外感染抗体とワクチン抗体を区別できる「マーカーワクチン」の開発についての話題がありました。現在国内で使用されている豚熱ワクチン株（以下、ワクチン株）にウシ科反芻獣のアンテロープのウイルスを組み込んだ「マーカーワクチン」がすでに開発中で、安全性や有効性等に関する試験を実施しながら実用化が進められています。

一方で、ワクチン株は豚熱ウイルス1型に分類されていますが、国内の野生いのししで流行している野外株（以下、国内流行株）は2型に分類されており、そもそも両者の抗原性には違いがあります。そのため、国内流行株である2型ウイルスの抗原性に関する遺伝子を組み込んだ「次世代のマーカーワクチン」についても並行して研究・開発が進められているということでした。

（東部家保防疫課 先名係長）

他県の事例から学ぶ鳥インフルエンザの防疫対応

7月18日に（公社）富山県獣医師会が主催する家畜衛生対策に係る研修会が開催され、茨城県県西家畜保健衛生所の川上純子所長をお招きして高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の防疫対応について講演いただきました。

茨城県では平成17年に低病原性鳥インフルエンザ（当時は弱毒タイプのHPAIに分類）が発生して以来、令和3年には約79万羽の大規模農場で発生し、それ以降も100万羽規模の大規模農場でのHPAI防疫対応を経験しています。HPAIが発生するたびに生じる課題を常に改善し、例えば、鶏出荷用ラックを用いた殺処分方法では従来法から殺処分速度が20%以上向上したり、防疫作業に従事した人数も30%以上削減できたことなど、具体的なデータで有効性を説明していただきました。また、HPAI発生後に経営再開した大規模農場では、農場自らが再発防止に向けて対策を検討し、換気方法・通風経路の改良、塵埃フィルターの設置、農場周辺のため池の水抜きや藪の伐採などを実行しているとのことでした。その他、茨城県では鳥インフルエンザの防疫作業に、他畜種の畜産農家が機械やフォークリフトのオペレーターとして協力しているという話もあり、畜産の盛んな県の特徴も感じられました。

今回の研修会では、報告書を読むだけでは伝わらない豊富な防疫対応の経験が紹介され、本県でも講演内容を参考に、万が一の発生に備えて防疫対策のアップデートを続けていきたいと思っています。

（東部家保環境課 宮本課長）

第66回東海・北陸ブロック家畜保健衛生業績発表会が開催されました

令和7年7月17日(木)、岐阜県において第66回東海・北陸ブロック家畜保健衛生業績発表会が開催されました。本発表会は家畜保健衛生所の運営及び企画推進に関する業務、家畜の保健衛生に関する試験及び調査成績業務について、畜産の現況に即した家畜保健衛生事業の改善向上に資することを目的に発表及び討議を行うものです。

今回のブロック発表会では、本県から西部家保 増永係長、東部家保 山口係長、竹中主任の3演題、計21演題の発表がありました(本県の発表内容については本誌669号をご参照下さい)。この中から7題が本年9月11、12日に東京都で開催される第66回全国家畜保健衛生業績発表会の演題に選出され、本県からは山口係長発表の「*Eimeria ninakohlyakimovae*による山羊の肝コクシジウム症」が選ばれました。通常は山羊の腸管内に寄生するコクシジウムの肝内寄生を認めた事例について、病理学的組織所見に加え、オーシストの遺伝子学的特徴を詳細に解析し、種の同定につなげたことが評価されました。

その他、他県の選出演題について以下に一部をご紹介します。

「管内養豚場におけるネズミ防除 IPM プログラムの有用性及び運用可否の評価」

静岡県東部家畜保健衛生所 田島朋世

立地や施設老朽化等からネズミ被害を被っていた養豚場において、IPM(Integrated Pest Management、環境・化学・物理的防除の総合組合せの意)に基づく防除体系を作成し運用。具体的には周囲の雑草等の除去、畜舎の修繕、忌避剤や粘着シートを使用し、定期的に効果を検証。家保が伴走支援するとともに農場主も意欲的に運用を継続し有効に機能した。今後、同体系の他農場への運用を目指す。

「豚熱免疫評価の観点における ELISA キット国産製と海外製の比較検証」

岐阜県中央家畜保健衛生所 桑田桂輔

豚熱免疫評価(免疫獲得率の確認、接種適齢期の推定)の観点から、国産製と海外製の ELISA(酵素反応を利用して抗原、抗体を検出、定量する方法)キットの有用性を比較検証。多くのサンプルを現場での使用に即した内容で詳細に検証し、検出精度、定量精度を求めることで各キットの特徴を示した。本検証においては検出精度の良さから海外製が野外的のししの抗体検査に適することを示唆。目的に応じたキットの選択により、効果的な豚熱発生予防につながることを期待される。

(東部家保検査課 竹中主任)

「富山県産牛乳マーク」を目印に毎日モォ～1杯!

県内スーパーで多くの種類の牛乳が販売されている中、消費者の「どれが富山県産の牛乳か分からない」との声を受け、このたび富山県牛乳普及協会と富山県乳業協会、富山県乳牛協会が連携して「富山県産牛乳マーク」が新たに作成されました。

本マークは、県内乳業メーカー7社の主要な1Lパック上部に赤色を基本として印字され、7月中旬より順次店頭での販売が始まっています。併せて、多くの販売店に協力を得て、牛乳売り場にはPRポスター等の販促資材を設置し、マークの普及が行われています。

県産牛乳は、約35%が学校給食で飲まれており、学校が休みになる時期は消費量が減少します。本マークの牛乳を販売店等で見かけた際には、手に取っていただき県内の酪農家と乳業メーカーを応援いただければと思います。

また、家庭での消費喚起のため、富山県牛乳普及協会と北陸酪農業協同組合連合会(北陸酪連)で作成したCM「牛乳はなんでおいしいの?富山編」(二次元コード参照)がYouTubeで7/24~8/20の期間に配信されています。本CMにも県産牛乳マークが登場しますので是非ご覧ください。

今後は、学校給食で用いられている200mLパックにも本マークの印字が予定されており、馴染みあるマークとして、広く県民の皆さまに定着し、地産地消の推進につながることを期待しています。連日の猛暑となっていますが、元気に乗り切るため「富山県産牛乳マーク」を目印に、冷たい牛乳を毎日モォ～1杯いかがでしょう。

(農産食品課食品安全係 中村主任)



富山県産牛乳



PRポスター



北陸酪連 YouTube
CM動画

畜産女性研修会開催される

7月30日、東部・西部地域畜産経営技術推進指導協議会主催の「畜産女性研修会」が呉羽ハイツにて開催されました。例年2月に開催されていましたが、昨年度は大雪により中止となったため、今年度は時期を早めて7月の開催となりました。

研修会では、共済家畜診療所の竹内弘子先生より「超音波検査からわかる子牛の病気」と題した講演が行われました。超音波画像の基本的な見方から始まり、各種疾患における画像の特徴や、実際に先生が治療された症例について、子牛の人形を用いながらわかりやすくご説明いただき、超音波



人形を使った竹内先生の講演の様子

診断の重要性と活用方法についての理解を深めることができました。また、畜産研究所の南部愛 副主幹研究員からは「ルーメンバイパスナイアシン製剤を活用した周産期の暑熱対策」に関する研究結果が紹介されました。従来の送風機や細霧装置による環境対策に加え、暑熱期に分娩した乳牛にルーメンバイパスナイアシンを給与することで、初回発情や子宮回復の改善が確認され、暑熱対策として有効であることが示されました。本研究は今後の乳牛管理における新たな可能性を示すものであり、参加者からも関心が寄せられました。

研修会は、終始和やかな雰囲気の中、畜産女性の皆さん方との情報交換や交流を深める貴重な時間となりました。今回残念ながら都合が合わなかった方も、ぜひ次回はお気軽にご参加ください。

(東部家保検査課 山口係長)

酪農について学ぼう くろべ牧場で畜産体験学習会

7月10日、くろべ牧場まきばの風において畜産教育体験学習が行われ、片山学園初等科の5年生 25名が酪農について学びました。これは、農林中央金庫と片山学園が共同で2022年から取り組んでいる試みで、金融と農業のつながりについて学ぼうという趣旨で実施しているものです。今年は畜産がテーマとして取り上げられ、今回くろべ牧場で畜産体験学習会を開催する運びとなりました。

はじめに、牧場スタッフから富山県内の畜産の現状と酪農という仕事についての話、くろべ牧場で行っている業務内容(搾乳、子牛の預託育成、草地管理、乳製品の生産等)や一日の具体的な作業内容を聞いて、児童たちは真剣な様子でメモを取っていました。牛舎見学では、ホルスタイン種の他にジャージー種、ブラウンスイス種の3種類の搾乳牛を飼育していることや、他の酪農家から預かった牛を育成していることなどが説明され、育成牛は生まれて1年ちょっとで300kgを超えるまで成長し、子牛を妊娠できるようになると聞いた児童らは、牛の成長の早さに驚いた様子でした。牛舎の外では、保管しているサイレージのロールを押してみても大きさや重さを実感したり、牛糞からできた堆肥が草地に撒かれ、育った牧草が再び牛の餌となって循環しているという説明に感心したりと、動物園や観光牧場で見るだけでは分からない酪農業の背景についても触れることができたようでした。

参加した児童からは「牛の世話をする作業の説明がとても分かりやすかった。牧場の仕事は牛乳やヨーグルトを作るだけではなく、餌の草づくりなどいろんな作業があることが分かった」「草刈りの機械がとても大きくて印象に残った」「牛のために頑張って何時間も草刈りをするのはすごいと思った。牛をどんな風にお世話しているか詳しく知ることができてよかった」といった意見が聞かれました。今後もこのような取組みを通じて畜産への理解が深まるよう期待しています。



牛舎を見学する児童たち



みんなで押してもびくともしない
大きなラップサイレージ

(東部家保環境課 宮本課長)

防疫情報

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症と肝膿瘍	牛	4月25日	1	1	
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	牛	6月16日	1	1	
		6月17日	1	1	
牛コクシジウム病	牛	7月10日	1	1	
牛パスツレラ症と牛マイコプラズマ肺炎	牛	7月14日	1	1	
豚丹毒(届出伝染病)	豚	6月27日	1	1	と畜場発見
		7月1日	1	1	
		7月10日	1	1	
豚レンサ球菌症	豚	7月3日	1	1	
鶏コクシジウム病	鶏	6月30日	1	3	
めん羊の消化管内寄生虫症	めん羊	7月23日	1	1	

令和6年(2024年)シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

事例	回収日	場所	種名	備考
227	6月17日	北海道釧路市	オジロワシ	7月15日監視重点区域解除

県内における野性のしし豚熱PCR陽性事例(令和7年7月3日~7月30日検査実施分)

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	7月5日	魚津市石垣平地内	成獣	雄
2	死亡	7月24日	上市町湯上野地内	成獣	雌

家畜衛生ポスターデザインコンテスト 今年のテーマは豚熱

農林水産省では、家畜の病気やその対策への理解を深めることを目的に「家畜衛生ポスターデザインコンテスト」を昨年から開催しています。令和7年度は「豚熱をひろげないためにできること」がテーマです。

農場での豚熱発生を防ぐため、養豚農家は農場内に原因ウイルスを入れないよう日々努力していますが、同時に、豚熱ウイルスに感染した野生いのししを増やさない取り組みも必要です。野生いのししの豚熱感染を拡げないためには、野生いのししが生息する地域に住んでいる方、山林を訪れる方など、みんなで対策を行う必要があります。

豚熱という病気に関心を持ってもらい、おいしい国産豚肉の生産を守るために行動してみようと思ってくれる人が一人でも増えるようなポスター作品を募集しています。興味のある方はぜひ応募してみてください。

応募方法の詳細については、農林水産省のホームページをご確認ください。

(東部家保環境課 宮本課長)

お申し込み締切
2025年
9/30

令和7年度 家畜衛生ポスター デザインコンテスト

テーマ 豚熱をひろげないためにできること

日本産豚肉をこれからもおいしく食べられるようにみなさんの協力が必要です!!

野生いのししと豚熱の間で豚熱という病気がひろがっています。人間に感染することはありませんが、豚に感染して養豚業に大きな被害を与えます。豚熱の感染はウイルスに汚染された人・モノ・イノシシなどによってひろがっていくため、**みんなで対策をしていく必要があります。**

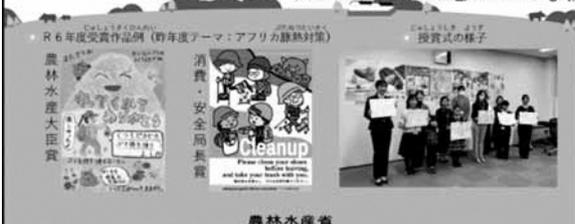
イノシシの保護を目的とするポスターではありません。気軽に公表されているイラスト・素材等を使用した作品は審査対象外とします。

◆応募資格 制限なし ◆募集期間 2025年7月16日(水)~9月30日(火)

◆賞 農林水産大臣賞 消費・安全局長賞 中央畜産会長賞 大日本猟友会長賞 日本獣医師会長賞 日本養豚協会会長賞 動物検疫所長賞 他

応募に関する詳細はこちらをご覧ください。
https://www.maff.go.jp/syosan/douei/eisei_poster.html
 野生イノシシにおける豚熱対策についてはこちらをご覧ください。
<https://www.maff.go.jp/syosan/douei/cst/wildboar/mosistaisaku.html>

◆お問い合わせ先 農林水産省家畜衛生ポスターデザインコンテスト事務局
 TEL: 03-3502-8111 (内線4583) MAIL: eisei_poster@maff.go.jp



農林水産省

☆お知らせ☆

催事等	期日	場所
北陸三県和牛子牛市場	8月28日	北陸三県家畜市場(金沢市)

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
 〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
 編集者 宮本 剛志(富山県東部家畜保健衛生所)
 ○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

